

# 隨想 三題

## 媒酌寸感

古林 喜樂

▲関西学院大学教授▽



のではないかと思う。これというのも、お見合いの結婚が、ほとんど無いからである。私が媒酌したこととはなんの関係もない。

今までの私の経験からいうと日本においては、恋愛結婚が結局うまくいっている。本人同志がきめた以上は、親は反対しない方がよい。アメリカのように、恋愛結婚でありながら、離婚率が高くなるには、日本はまだ相当の年月を要するであろう。

教え子たちからたのまれるままに媒酌をつとめているうち、この七月五日のが、なんと第百十八回目になっていた。もつとも第百四回のは、予約の今まで花婿が死んだので、この分は、私があの世へ行つてから約束を果たそうとばしてはあるが。

人は数の多いのに一応びっくりするようである。しかし私がほんとの仲人を果したのは、数えるほどしかない。大半は式のときだけのおすわり媒酌にすぎない。そうでなければ、日夜忙殺されている私なんかに、到底できることではない。ただ数の多いこともざることはながら、それよりも私が嬉しく思っているのは、皆が円満な家庭を営んでいるということである。これだけは、いささか自慢できる

この春ヨーロッパへ旅をして、流石の私もたまたまのは、セック

ス・ショッピング、本通りに堂々と立派な店を構えていたことであつた。神戸でいえば、元町やセントラ一街である。それがしかも、ヨーロッパでは一番かたいドイツのことなのだから、デンマークやスウェーデンの様が思い知られたことであつた。私もついつられて中へ入

り、パンフレットやら説明書をもらつて帰り、あとでゆっくり読んでみると、これは媒酌人にとっても、便利な店であると、いささか感心した。本や写真から薬用品・器具類に至るまで、一式が揃えられてあつた。夫婦の和合について、媒酌人が入れ知恵をしなければならないようなときに重宝である。最近は、このような必要を感じる新婚さんが、ときどき出てき

ところが最近の披露宴のときの来賓祝辞は、本人を採用したときのことから入社後の動静について微に入り細をうがちつつ、新郎の人となりをあざやかに浮彫りにされた。今度は媒酌人の出る幕なしというような祝辞であった。

ときどき私は、日本でもぼちぼ

ち媒酌の制度をやめてみたらどうかと思うことがある。

司会者さえしつかりおれば、仲人なんていらない。新郎新婦の紹介は、先生や同僚やら友人たちの紹介なんて、およそナンセンスであろう。日本の結婚式もこれからは相当急激に変わってゆくのではないか。

結婚式も、だんだん移りかわつてゆく。本人同志やら友人たちが設営したものは、愛情のこもった実にうるわしい披露になるのだけれども、親が立派なホテルで催すものには、ピンボケのものが多い。かつては来賓祝辞ほどしんどいものはなかつた。新郎新婦をそつちのけにして、親の話ばかりをしている。誰の結婚式なんだと、どなりたくなるような思いをしばしばせられた。

## 二度目の 初夜

寺尾 竹雄

（グラフィック・デザイナー）



「よかつたらうちへ来ないか。こ  
れから帰るところだが」

「ええ……いまどこ？」

「荒田町。相変わらずの二階借り  
だ」

「二階借り——それは二人にと  
つてショッキングな事件への回想  
につながる。

「二階借り——それは二人にと  
つてショッキングな事件への回想  
につながる。

については全く見当がつかなかつ  
た（あとになつて友だちの家にか  
くれていたことがわかつた）。結  
局、証拠不充分ということで二人  
は引きあげていつたが、それから  
四年、クロちゃんとは会うことも  
なかつた。

さて、私の家へクロちゃんが來  
た夜から、また雨が降り続いた。  
翌日も、次の日も。雨がはげしく  
雨戸をたたいた。それは、昼でも  
戸をしめて寝てたらええがな……

といつてはカツコいい若者だったの  
で、店の女のコの間でも人気があ  
つた。クロちゃんもその一人だつ  
た（クロちゃんはその店での愛

称で、名は体をあらわしていた）。

あれはサクラの花も散った晩春  
の一日だつた。夜勤明けの朝から  
その日の夕方まで、私の二階の部  
屋で、十七才の青い果実を開いた

クロちゃんは、その夜喫茶店へも  
出勤せず、家へも帰らず。どうい  
うわけか蒸発してしまつた（とい

うことは、翌朝クロちゃんのおや  
じさんと、Bのマスターがどなり  
込んで来て、わかつたことだが）。

「うちの娘をどこへやつた」「行  
き先を白状しなはれ」とかわるが  
わる攻められたが、身におぼえの  
あるのは原因のほうだけで、行先

あれはひどい年だ  
見ない日が五日とは  
無かつた。そんな長  
雨の、梅雨の晴れ間  
を待ちかねたように  
喫茶店めぐりをして  
の帰り道、バツタ  
リ、クロちゃんに出  
会つた。クロちゃん  
は棒のよう立ちど  
まつた。半分泣いて  
半分笑つた顔だつ  
た。二人はしばらく  
ことばが出なかつた  
四年目の再会だ。

「久しぶりやなあ  
……」

「お元気？」

それは過去になに  
ごともなかつたよう  
な二人の会話であつ  
た。歳月がそうさせ  
たのかも知れない。

あれはサクラの花も散つた晩春  
の一日だつた。夜勤明けの朝から  
その日の夕方まで、私の二階の部  
屋で、十七才の青い果実を開いた  
クロちゃんは、その夜喫茶店へも  
出勤せず、家へも帰らず。どうい  
うわけか蒸発してしまつた（とい

うことは、翌朝クロちゃんのおや  
じさんと、Bのマスターがどなり  
込んで来て、わかつたことだが）。

「うちの娘をどこへやつた」「行  
き先を白状しなはれ」とかわるが  
わる攻められたが、身におぼえの  
あるのは原因のほうだけで、行先

それから三十二年。大衆食堂で  
ビールを飲み交わしただけの夫婦  
は、けんかもせず、けがもせず、  
けんたい期も知らず、激動の昭和  
を生きて來た。それは長いアスト  
ロラマを見上げている夫婦のよう  
でもあつた。

（カットも）

# 娘を嫁がせて

田口 寛治

（神戸大学教授）



娘をとつがせた父 親がその感想を書いた文章を、これまでに何度も読んだことがあります。読むたびに、「なんだ未練たらしく」「めそめそして」と、あまり好感がもてませんでいた。わたしは、そういう機会があつても、決してペンはとらないと思つていました。

わたしにもそういう機会がこの春やつきました。決心どおり、娘の結婚の前も後も、そういう原稿の依頼はおことわりしてきました。ところが、式がすんでひと月、ふた月たつうちに、さまざま

うわさがわたしの耳に入つてきました。わたしが「式の最中に、身世も世もあらず泣きさけんだ」とか「がっくりきて病気になつた」とか「残り少ない頭髪が抜けおちた（白髪になつた）といううわさはないようです」というたぐいです。うわさを聞いたひとが、見舞状をくださつたり、「なぐさめる会」を計画してくださつたりというようになりました。先日会つた知人は「もう泣きやんだか」ときいてくれる始末です。

ひどろ、ひとなみはずれて涙腺が弱く、またひとりつ子の娘の結婚だから、さぞかしと推測されるのはやむをえないでしょうが、それにしてもデマが大きすぎるので真相（大げさすぎますね）を書きたくなりました。

昨秋、縁談がととのつてから、今春の式までの間、友人知人にさんざんおどかされました。「あまり涙をこらえると、最後に奇声ができるよ」とか「蒸発だけはするな」というふうに。

だが、「子どもはどうせ親からは離れていくもの」という観念は十分にもち、その点でだけは「さとり」に近い気持ちに達していると思っているわたしは、娘の結婚に「さびしさ」「悲しさ」を正直正銘あまり感じませんでした。娘自身も望んだ結婚だし、わたした

ちには恵まれすぎたとさえ思える縁談だったのです。「いろいろと話は果せた」という気持ちでいはいでした。「花嫁の父」の悲愴感はありませんでした。

だから、式の間も、ケロッとしていたつもりです。「いろいろとわたしの百面相を期待しているひとがいるだろうに、こんなにケロッとしていていいのだろうか。少しはご期待にそつたほうがいいのではなかろうか」と考えたりしました。

ところが、披露宴がすんで、最後に新郎新婦が相手がたの母親に花束を贈ることになりました。そばに来た新郎新婦に、わたしも握手をしました。そのとたんにおかしくなつたのです。娘の手をにぎつた瞬間「この手の感触は、この子が幼児のころ以来、しばらくぶりだな」というような思いが、からだをつきぬけました。もう涙がとまらなくなりました。

絶対にそれだけのことです。もちろん、現在は、家内とふたりでふたたび新婚（この原稿だけは家内が検閲するそうですから、こう書きます）のような気分で、毎日を楽しんでいます。どうぞ、お読みくださったかたは「バカバカしい」と思つて、デマを縮小させていただきたく思います。

三浦レオニーさんは、正統派の

英國刺しゅうを日本に導入した人として、関西ばかりでなく、日本

の手芸界に広く知られている。こ

の教室からは、現在手芸界で活躍しているショーン・ヤスコ、中尾悦子、西浜恭、宮飼青子、松本のりゑさんなどが輩出、レオニーさんのまいた種を立派に開花させて

いる。

ニさんは、

「神戸に住むようになってから、美しい六甲の山々や神戸港を目の

あたりにして何か意義ある仕事を

したいと考えました。戦後の荒廃

の時に、若い人々に何の楽しみも

ないことを思い、刺しゅうを始め

ました。美しい日本の海や山に、

ロイヤル美術学院で学んだデザインを生かして、図案や美しい糸の

かにリズム感にあふれ、レオニー

さんの優しい暖い心をあらわして

いるような配色の妙にもヨーロッ

パの斬新な色彩感覚がうかがえ

る。名もない日本の草花、楠公さ

んの瓦、コンパクト、鉄屑にま

で、レオニーさんの新鮮な目は注

がれ、美を発見していく。

生徒たちは、まず先生の構図、配色を勉強して、基礎を充分に身にたくわえる。伝統の技術をマスターして初めて、時代にあつた自分の個性が表現できる。

週二回、水・木曜日の稽古日に手芸のレッスンが開かれるレオニ

ーさん宅は、松陰短大、海星女学院などに近く、瀟洒な外人住宅が建ち並び、異国情緒にあふれいる。

その中で奥さんやお嬢さんが一  
さし一さし白布に色彩の見事なハ  
ーモニーをていねいに表現してい  
く。現代のあわただしさからかけ  
離れたような優美な雰囲気をかも  
し出している。



ある集い  
その足あと



三浦レオニーさんを囲む  
欧風刺しゅうの集い

英國マンチエスター市に生まれたレオニーさんは、ロンドン王立美術学院图案科でデザインを学んだ。当時、英國に滞在していた夫君の三浦昇三氏と結婚して来日したのが一九一四年。その間、ニューヨーク生活もあったが、すでに直後のこと。その頃のことをレオニーさんを囲む  
神戸在住三七年になる。

刺しゅうを教えるのは戦争直後のこと。その頃のことをレオ

ニさんは、調和を見付け出し、皆さんと共に生活のうるおいをと今日までやつてまいりました」と語っている。糸や布に不自由したその頃から今まで、レオニーさんの教えをうけた生徒さんは数えきれぬほど。免状をとった人だけでも二四人、みんな刺しゅうで立派に生きている腕を持っている。

レオニーさんの刺しゅうの特徴

*Happy Wedding*



北 欧 の 銘 菓

**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場 神戸市垂水区舞内町1 (市立美術館東隣) TEL 22-1164  
■三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 33-2421  
■さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 39-3558



初秋の風の中では

フェミニンな優しさで  
装ってください



美しさを創るオートクチュール

**エスター ニュートン**

神戸トアロード TEL <33>1818, 1858  
大阪阪神 TEL <361> 1201



## 価値あるロンジン

ロンジンは 万国博で10回もグランプリを受賞しているスイス時計界の名門です。

ロンジンの時計には ロンジンに与えられた数々の荣誉と一世紀にわたる伝統の技術が結晶しています。最も信頼され 最も名声の高い《ロンジンの時計を持つ誇り》そこに価格以上の偉大な価値が秘められています。

ロンジンは 大阪の万国博(スイス館)にも出品されていますから ぜひご覧ください。

ロンジンの本当のすばらしさは 当店で実際にお手にとってお確かめいただけます。



# LONGINES

特 約 店



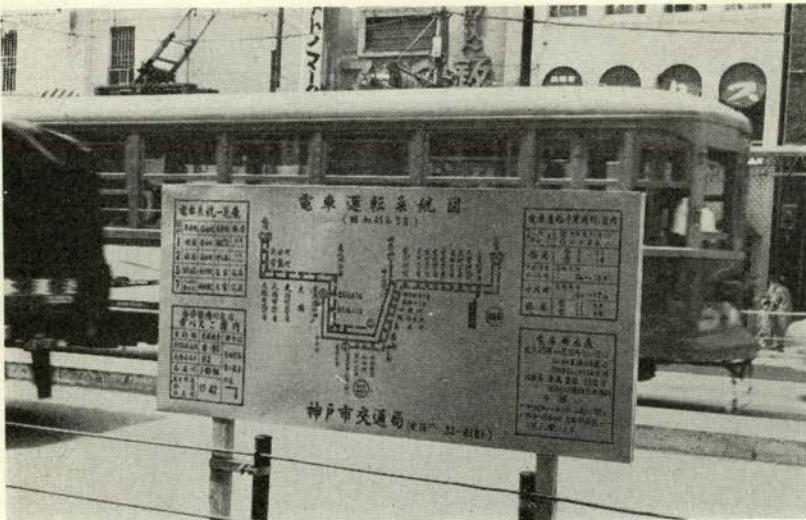
# 美 田 時 計 店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798

三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL33-8798

# 市電哀愁

林田 重五郎（随筆家・写真も）



この運転系統図のさみしくなったこと（三宮で）

いま神戸についての質問のなかで、答えるのが最もむつかしいのは「神戸の市電は、現在、どこを走っていますか」であろう。上簡井から石屋川へ走っていたのがなくなつた、と思っていると山手線もアッという間に消えてしまった。須磨線も姿を消し、平野線もあえなくなつた。市電はどこを走っているのであろうか。

昭和四十五年七月末現在の運行図は写真の通りである。わたしもいろいろな感慨をこめて、この図面の前で立ちつくした。どうかみなさんも、この写真から過ぎし日の市電の栄光の思い出を、あらたにしていただきたい。

ついでに市電当局に電話で教えてもらったデータを記しておこう。七月末の保有車輌は四五台ピーク時には三三台から三五台を運転する。全盛時は保有二三五台、運行二〇〇乃至二一〇台、運転区間の延長三五キロ、これがいまは一〇・六キロに縮減されてしまった。

そして、たとえば三宮の生田署前で、朝夕のラッシュ時が七、八分おき、昼間の閑散時で十二分に一台市電が走る。一日計百回くらい、以前はこ

の線は、あとからあとから市電が来て、日に三百回は通った。寂しくなったものではある。



交通論という学問がある。わたしも昭和五年県立高商二年のとき、これを学んだが、授業は新潟から着任されたばかりの須永秀弥先生であった。開講一番、大きな目をクルクルさせながら、おしゃつた言葉をいまも覚えている——

「神戸はいいですね、市電が早い。着く早々、市



車にはさまれて市電はうめく（三宮生田筋で）

電の全線を乗り回って来ましたよ。」まことに神戸市電のスピードは、どの市電よりも早かった。京都の市電はおっとりしているので比較にならぬが、東京の都電、大阪の市電に比べても、ずっと早かった。スピード自体も早いが乗降する神戸市民の動作が、これまたスマートでテキパキしていたからだと思う。降客が終らぬのに乗客が乗ろうとするようなエチケット違反は見たくとも見られなかつた。降車まぎわにツリ錢をもらうようなものもいなかつた。神戸市電の快スピードには、この神戸っ子気質も大いに協力していたようと思う。

新聞記者になって、昼夜、市電に乗りまわった特に夜は東半分か、西半分の警察をコソコソと市電に乗つて全部まわる。最もよく市電に乗つた市民の一人であろうと思うが、加納町へ向うときの上筒井線、西行の山手線、海岸沿いの須磨線などいまも体に思い出が残つてゐるほどの快速ぶりであった。

タクシーはもちろん市電をさけた。あのころは市電の軌道内を走つてはいけないことに決まっていたようと思う。いまは車の海の中に、市電があえぎながらヨヨチヨチ動いている。世の移り変わりとはいひながら、あまりにも氣の毒な姿ではないか。道路を車に明け渡して、次から次へと定年退職してゆくその姿に、一しずくの涙を流してもよいと思う。



この快速無比の神戸市電がノロノロ運転をやつたことがある。しかもこれは大きな事件に発展する。



市電こそ市民の足、市電を愛する人はいまも多いが……（三宮で）

戦前の労働界では、市電従業員は花形の一つである。例えば東京市電の「東交」など、その尖銳さと実力とは労働史に大きなスペースを残している。神戸市電従業員組合は昭和十二年四月、合法サボ——いまでいう違法闘争を三日間やった。規則通りの運転だから、まことにノロノロしたものであった。どこへゆくにもほぼ二倍の時間がかかった。要求は現今と同じ、物価があがるので昇給を、というのである。

この闘争に対して杉野電気局長らの当局側は平

合側はこれを組合弾圧だとして、当然、次の闘争を準備した。わたしは警察回りのほかに労働記者をしていたが、ある夜、葺合署へ夜勤にゆくと特高の労働係のHさんが宿直で「布引車庫の雲行きがおかしい、君はどう思うか」との話。布引車庫……なんというなつかしい名であろうか。組合は各車庫を中心にして組織を固めていた。「こんどは昇給などちがって、金額の大小で妥協するものではなく、復職か否かの二つしかない。大変な争いになると思うが……」この意見に同感して、それから楠町六丁目の神戸労働会館にあった組合本部をずっとマークすることにした。

七月五日夜、果然急迫して來た。六日午前一時四十分、ゼネストの指令が出た。Hさんのおかげで、六日付朝刊は特ダネになつた。地元の新聞の号外が、この朝刊の配られたあとで神戸にまかれた。

組合本部で徹夜して兵庫突堤にかけつけると、指令通り、職場をはなれた市電従業員たちが淡路航路に乗り込んで、元気よく洲本へ向つて行つた。市電は一部の残留組や監督で動かされたが車輛は半減だった。

しかし戦いはHさんの予測通り、イエスかノウの妥結点のないものであり、しかも七月七日は芦溝橋——新しい日本の大波にのまれてしまつた。洲本籠城の名案も十分戦果を見なかつたのである。敗戦のあと、県会市会にも社会党からたくさん当選した。その議員のなかに、例えば中ノ瀬幸吉さんといった往年の市電従業員組合の幹部の名を見たときは、本当になつかしかつた。

# 神戸と私

矢内原 伊作  
え・松 本 宏

東京で育ち、戦後京都に移り住んで二十年近くになる私にとって、神戸は非常に縁の深い街とはいえない。ときおり訪れて東京や京都とは異なる雰囲気を味わい、ごく一部の、それも表面的なところだけに触れてちょっとした気分転換をはかるための街、といった程度のつながりである。したがって神戸を語る資格はないのだが、このちょっとした気分転換が私にとっては貴重なものなので、私は神戸を訪れるのがたいへん好きである。

太平洋戦争がはじまる直前のころ、私は京都で下宿住いをして学生生活を送っていたが、陰気で閉鎖的な京都の空気になじめなかつた私は——それは必ずしも京都のせいだけではなく、自己のなにかに閉じこもっていた青春の閉鎖性の故であり、また重苦しくのしかかっていた時代の空気の故でもあつたが——ときどき神戸に遊びに行くのを楽しみにしていた。さいきん必要があつて学生時代の日記を読みかえしてみて、思ったよりもしばしば神戸に行っているのを発見した。元町にウイン

ナという名曲喫茶があつて、京都からわざわざそこに出かけて行って音楽を聴くのが学生だった私の主要な関心事の一つだつたらしく、古い日記にはそのことがしきりに出てくる。「阪急電車が神戸に近づくときのあのなんともいえない明るい解放的な感じ——それは南フランスの海辺を思わせる」などと書いている。こう書いたときは南フランスの海辺がどんなところか實際には知らなかつたのだが、その後コート・ダジュールを訪れて、私は右の感じが誤つていなかつたことを確かめた。この感じはいまでも変らない。いつでも神戸は私にとって明るくハイカラな街である。

山が海にせまつてすべりおりて、その傾斜地に細長く横にのびてゐる神戸の街の特色は、なんといつてもその山が白く乾いた山であり、海が外国航路の大きな港であることから來てていると思う。東のほうから神戸に入る場合、山から海につらなるそのたたずまいを見るには、上のほうを走っている阪急電車が一番いいことは私の古い日記



にもある通りだが、もつといいのは船が港に入るのことである。私は戦後京都に住んでから、用事で神戸に行くのに、時間の余裕がある場合には時折この方法を用いた。大阪の天保山まで行って、別府行き、あるいは高松行きといった船に乗り、一時間半の船旅を楽しんで神戸で下船するのである。

先日かねてから親しい阪神間に住むある中の奥さんと雑談をしていたとき、たまたま東京、京都、大阪、神戸といった各都市の住民の気質の相違といったことが話題になつたことがある。その奥さんは神戸よりも大阪のほうが近いにもかかわらず買物には神戸のほうに出かける、といった神戸びいきの人だが、その奥さんによると、新幹線などに乗っていても、東京の女性、京都の女性、大阪の女性、神戸の女性は表情や服装ですぐにそれぞれの見分けがつくというのである。私には一向そういう見分けはつかないのでそのときには反対して議論したのだったが、観察の鋭い女性ならば見分けがつくのかもしれない。この奥さんの結論だけをいうと、洋服の着こなしが最も洗練されていて、表情がそれにふさわしく品がよくて明るいのは神戸の女性だということになるのだが、これは彼女がはじめから神戸びいきだからであろうしかし、神戸の街を歩くと、のびのびとして明るい感じの女性を見かけることが多いのは事実である。朗らかで屈託がない。これは現代の日本では稀な美德である。

神戸と私の縁はそれほど深くはないと最初に述べたが、私の父は質実剛健をもつて有名だった昔の神戸一中の出身で、父が少年時代をすごした神戸の空気は何かの形で私の家庭にも流れていた



矢内原 伊作氏  
<法政大学教授・哲学者>

苦である。その上、私を育ててくれた母——私の生母は私が五才のときに亡くなり、父は再婚したのだが——は阪神間の住吉の出身で、神戸の人といえるかどうかは知らないが、神戸的な雰囲気を身につけていた。ハイカラで明るく屈託がない。父は家庭のなかではたいへんきびしく、子供だった私などはいつもびくびくしていたものだったが、そんな父のきびしさをやわらげて家庭を維持してきたのは、母の神戸的明るさによるところが多いのではないかと思われる。父がガミガミ怒る母は神戸弁でこたえる。父もつりこまれて神戸弁になる。神戸弁でやりとりしているうちに父の怒りはしずまつて笑いが生まれる。そんな情景を私は子供のころなんども見たような気がする。とすれば私もまた神戸の恩恵を大きく蒙っているわけである。

私の妻はお尻が重く、あまり外出しないほうである。しかしその妻も、神戸に行こうか、というとよろこんで一緒に出かける。娘も神戸ならばいつでも行きたいという。この二人はショッピングが目的なのだが、車の通らないあの元町通りの商店街を一軒一軒のぞきながらぶらぶら歩くのはそれだけでも結構楽しい。船で港内を一巡して碇泊している船を見るのは一層楽しい。こんな風に書いてきたら私はまた神戸に行きたくなつてきた。

# 本御影で小原城を築宮

阪急御影から深田池を廻って、九重坂の斜面にある小原会館に、新しく藝術参考館が七月二十三日竣工した。

静かな松林の麓に、御影石と幾何学模様のタイルブロックが、たくみにくみあわされ、日本的な美しさにモダーンな感覺が加味された建物。地階、一階、二階と、小原豊雲氏が長い間折りにふれて集められた南海土俗資料（ペルシア、北南米の古代土器、染色品など）に初代・先代の中国陶磁類も加わり、総数はほぼ五千点。今後もどんどん補充されるだろうから、家元のエネルギー・シュー（行動力）とともに驚くべきコレクションといえる。すべてが花の世界における創作の糧として集められたもので、アーチストにとっても、神戸人にとっても、ユニークな蒐集品に接する事ができたことは喜ばしい。

当日、オープningを祝つて藝術参考館へ多数の人々が、九重坂を登つたが、設計の清家清氏（東京工大教授・工学博士、建築家）が神戸二中（兵庫高校）出身ときいて、この小原城築宮のエピソードや神戸感をお聞きした。白いリネンのスーツに、エンジのネクタイがダンディな清家氏は、「この仕事が始まつたのは昭和三十年頃、家元が東京で展覽会を開かれたときディスプレイをお手伝いしたのです。どういうわけか建築家なのにお声がかかりましてね。私はその時、材木を生のまま使って、高島屋へ持ちこんでやつたのですが……。それ以来、初代の記念館、家元会館、家元のおすまい、そして今度の参考館と、ちょうど私のベースにあつた十五年間に四作という速度でデザインが進んだから、文字通り会心の作になつたといえるでしようか。何度もここは暴風雨のために、山崩れのあつたところで、今では、深田池のところまで

基礎づくりがしてありますから、六甲山が崩れたって、ここはきっと残つてありますよ。この山崩れで現場から御影石がゴロゴロでてきましたね。粒選りとはいえないけど、御影でた正真正銘の本御影。記念にもなるとハービングで現場で採つた石を積みあげたわけです。

この石屋さんにおもしろい競輪好きのオッサンがいますね。お金を渡すと競輪に行つてしまふ。ところが、マジメな弟子がいてこつこつ積みあげているのがいるんですね。実際にはオッサンの方が上手いんです。仕事を始めるとき骨身を惜しまんのです。たいていの方に大きな石を置いて、上に小さな石をおく、オッサンはそうじやなく格好の良いところに積む。競輪好きのオッサンを、だまくらかすか、だまくらされるか、職人さんとの共同制作だから面白いですよ。ここはオッサンの積んだところだと一目でわかりますね。

蘇鉄の木も、電信柱のように根を切つて、家元が、奄美大島から持つて帰られたものでね。家元はもともと園芸学校の出身なので、植物学はお得意なんだが、こういったアドリブや共同製作が、この建築には非常に多い。建築は明和工務店、家具は不二屋さんで、みんな神戸っ子だったのも成功の原因でしょう。

まあ、これだけ広い山を、小原流の發展にともなつて一連の作品ができるあがつたのですが、せめにくい九重坂を、一の丸、二の丸と小原城づくりをやつたという感じで、まだまだ今後の拡張も計画されているので、藝術参考館は、その中のひとつの句点ですね。ここも、初めは参考品のお蔵のつもりだった。だから収蔵庫が陳列館になつたので保存のための冷蔵庫と思つていただきたいで

すね。保存には冷暗所が良いわけで、保存のことを考えて、見物人のことをあまり考えてない。それで冷房はあっても暖房はなしです。たいてい、作品が一つ出来るがハイサヨナラで終りだけれど、ここはいつまでもつながらりがあるので、私にとっては大変楽しみです。何といつても小原さんだからできたのですよ」

——神戸二中の出身で神戸にはお友達も多いでしょう須磨に住んでいましてね、東須磨小学校から神戸二中へ行きました。その頃は、板宿と大手の境ぐらいに住んでいまして、いまでもその頃の家が残っています。家から、そうれん道を通って五番町の二中まで通っていました。お天気の良いときは五位の池の上の山を越えて通った。途中山の中に育英商業とキチガイ病院があつたが森の中で首つりなどあつてこわくてね（笑）別車博資先生に絵を習っていましたが、神戸二中から芸大へ行つたの

は、小磯良平さん、東山魁夷さんの次が私、三人目で、これは私の自慢の一つ（笑）後から芸大へ入つてくるのがない点ちょっと淋しいですな。二中時代は非行少年で活動写真を観に新聞地へ行きましたね。友達に福原の桜筋に家があるのがいて、そこに制服と鞄を置いて、ちょうど具合がいいんですよ。二中の名簿を見ると同級生が五〇人戦死していますよ。この福原の友人も死にました。須磨寺の菊人形もなつかしいですね。戦前の神戸は、領事館も、船会社も、貿易会社も本店が神戸にあつたから、昔の神戸は日本の中でも独立性を持つていましたよ。今は大阪の附属都市になつてしまつた。昔は日本の神戸、世界の神戸だった。神戸港はヨーロッパを

向いて、横浜がアメリカを向いていましたよ。神戸の都市計画は山をつぶして海を埋めてるんだがプロジェクトのでかいのが、神戸っ子らしくていいね。し

かし、もう少しまートにやれれば、昔ながらの神戸の雰囲気が出るのに、何となくガサガサして、水もまずくなりましたね……。

万博ですか？

スイス館と国連館と専売公社の設計と建築に加わりましたが、国連館は場所が悪いのか、行つたという人が少ない。また行かれたら、ぜひ見てくださいよ」



左 難波俊作氏、中央 清家清氏、右 穴道洋一氏 小原会館建築のスタッフ。

あなたの美しいヘヤースタイルと  
花嫁をつくる 美容室 エリザベス



エリザベス

畠尾 芙久子

本店美容室 生田神社前 新河南ビル2階 <33>8894  
婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <33>3258  
三宮店 三宮神社山側三上ビル2階 <33>4917  
芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <2>4067  
西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294  
美容担当(東京初代遠藤波津子直流) 専属結婚式場  
生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉  
学園・蘇州園他

## お慶びの日に

夢を結んだ  
幸せの門出  
二人に言祝ぐ  
老舗のお引菓子



ウエディングケーキ ¥ 3,000~10,000  
三つ盛お引菓子 ¥ 750~ 1,700

★ご予算に応じお気軽に御相談ください

神戸にそだって 70年

夙月堂

元町3丁目 TEL ⑨2412~5  
さんちかスイーツタウン TEL ⑨3455

# ロッテルダムだより

小泉康夫

（月刊神戸・子編集長）



ロッテルダム駅にて

アムステルダムから急行列車で一時間、ロッテルダムに着く。ヨーロッパの鉄道は駅の構成もわかりやすく簡単に汽車に乗れるようになっていて乗り心地もさすがに結構なものである。

アムステルダムからロッテルダム間は首都ハーグをはじめいくつかの駅に停車する。駅はそのたたずまいも立派で町の歴史を物語っているようである。

車窓からの風景は、放牧の牛の群や、オランダの風車のある田園風景が楽しく快適である。

ロッテルダムを訪れ、街や港を短時間で観ようという

厚顔しい計画、駅に降りるところに、市庁舎を探す。

駅の近くの中央地区にある市庁舎を目指す、中世風のシックな建物、あれが市庁舎だというので急いだところが、その建物にはいった途端、親類縁者に囲まれた若いカップルが結婚記念撮影中のである。

これは間違ったと思ったが、その新婚のカップルの幸せそうな光景にひかれてカメラのシャッターを何回となく切った。

写真を撮ってから、市庁舎を探さねばと思ったが、意外にもこの建物は間違いなく市庁舎なのであつた。

一階のメインロビーで新婚のカップルを囲んでいたグループと市庁舎というイメージがどうしても重ならなかつたのだ。だが、シティ・ホールといえば、よくわかる。一瞬、あれ、と思つたが理解できた。

確かにこの建物こそロッテルダム市庁舎であった。私たちが訪ねる、ロッテルダム市のパックス広報部長さんはこの三階におられたのである。

神戸市のご好意もあって、私たちの訪問を待つておられたパックス広報部長は早速、ロッテルダム市に関する都市計画、都心部の再開発計画資料から港湾の資料をどつさりと揃えて下さって、

「ロッテルダム港をご覧いただくためには四時間必要ですがどうしますか」といわれた。私たちにとって四時間という時間は大変だったがご好意にあまることにしました。後で思えば、要所、要点をキツチリ押えた見事な見

学スケジュールであつて、それでもユーロ・ポートの一  
部分しか見学できなかつたことになる。

だから、観光客たちが訪れるポートタワー（ユーロ・  
マスト）さえも割愛しなければならなかつたから、いか  
にユーロ・ポートが巨大な港湾設備をもつてゐるか驚い  
たのである。

つまり、ユーロ・ポートの片岸を往復するのに四時間  
でなく五時間かかつたのである。

だが、その間に適切な都市、港湾の計画室も案内いた  
だき計画の進捗ぶりが言葉が判らない私たちにもよく理  
解できたし、その計画の徹底した進め方に眼を見はる思  
いがした。

ロッテルダム市のご好意で職員が案内にたつて下さり  
ユーロ・ポートの片岸を車で走つた。

そして、その規模の雄大さに驚嘆したわけだ。私たち  
のような門外漢でも驚くのだから、専門家がくわしく調  
査すればその凄まじいまでの大規模な港湾設備に圧倒さ  
れてしまふのではないかと思つた。

### ★猛烈計画のユーロ・ポート

神戸港が開港一〇〇年を迎えた記念祭でロッテルダム  
港と姉妹港の提携を結んだことは周知のことである。

このロッテルダム港はユーロ・ポートつまりヨーロッ  
パの表玄関という意味の言葉が使われてゐるが名実とも  
に世界一の港湾都市なのだ。

地図で見ても明確なように西欧を縦横に流れるライン  
河、ミユーズ河、シェルト河の三つの大河が北海に流れ  
る河口に位置してゐる絶対に優位な立地条件がある。

この立地条件は、西欧諸国がほとんどそのヒンターラ  
ンドといつていいほどのものであつて、ロッテルダムは  
その立地条件を見事に生かして大胆な積極的な港湾投資  
を行なつて現在の世界一の港をつくりあげてきただので、  
その猛烈な意欲と推進力は素晴らしい一語につきる。

与えられたデルタを黄金のデルタ（Golden Delta）  
と呼ばれるまでに創造したのは、ロッテルダム市とその  
市民の努力によるものだと教えられて、そのエネルギー  
の大きさに驚くはかはなかつた。

ロッテルダム市はまた神戸市ほんとうによき理解者  
なのである。

市庁舎のロビーで記念写真を撮る新婚カップル

ロッテルダム市庁舎



の動きには実に詳しく、ユーロ・ポートが現在埋立を行なっている最尖端のところで埋立地を指しながら、「この地域の埋立は神戸市が現在、推進しているポートアイランドとまったく一緒です」という説明である。また、一驚したのは、現時点で一番活発に埋立てが行なわれている地域に展望がきくようになつていて、その丘にしようしなレストランがある。

不思議に思つたのだが、これこそロッテルダム市が市民にその仕事の内容をそして動きをもつともダイレクトに説明するために設けられている設備だと知つて、その見事な広報活動に最敬礼。そのレストランには自分たちの港を確かめようという人たちで賑わつてゐるのだから、恐れいつてしまふ。そしてレストランからの展望だけでも十分でない専門家や観察者には港湾の埋立事業の全容が説明できるよう、美しい展示場があり専門的な技術の解説が30分もあればできるようになつてゐる。



埋立地を見下ろすレストランから

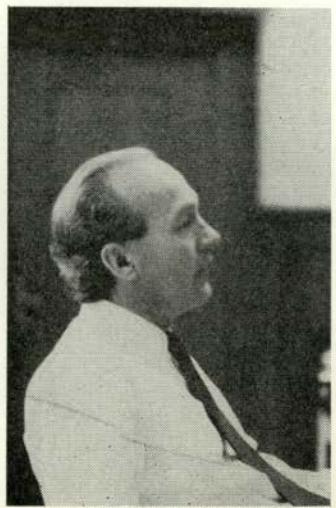
猛烈な意欲と積極性のなかに細心の配慮があれば説得力も倍加しよう、やはりそこに伝統の底力を感じないわけにはいかなかつた。

この例を考えるなれば神戸市でも現在、ポートアイランド計画が進められているのだから、いい考え方をとりいれるということで、さしづめポートアイランドの一角なり展望できる場所に市民とともに創造する港湾といつた視点で市民を説得でき得るような設備を考えていいくではないかと思う。

市民との対話が十分に行なわれない事業はやはりなんといわれようとも片手落ちのそりはまぬがれない。

#### ★世界のショッピングセンター

ダイナミックな港湾づくりのロッテルダム市はまた、手際のいい都市中央部の再開発ぶりを見せてゐる。この町づくりも世界の話題を呼んだというのだから立派なものである。レインバーン・ショッピング・プロムナードがそれである。このショッピングセンターの特色はなんといつてもレインバーン（環状歩道）と呼ばれ、車道がないことである。最近、日本でも歩道の休日開放で大変な話題をもいたが、ロッテルダムでは魅力的なショッピングセンター、レインバーンでは一切自動車類をシャットアウトして計画されていて、ゆつくり人間がショッピングを楽しむ雰囲気をつくりあげている。



ロッテルダム市バックス広報部長

ニニケーションの場をこしらえるか苦心しているのであって、すこしは野暮ったくなつても憩いの場を楽しい場を提供しているのは神戸のショッピングセンターも見習つてほしいことのひとつである。

このレインバーンを歩いていると、賑やかな娘たちの一団がふと私たちを見返つて写真を撮つてほしいといつた。O・Kをして娘たちを撮して送るべき住所を聞いたらUSSCとあつた。レインバーンともなればやつてくるお客様達も世界的だと感心した。

面白いのはこのショッピングセンターをとり巻くようにリーフがぐるぐる廻つてることだ、若い人たちがちゃんとカッフルで乗れるようになつていて。

野次馬的なことでは人後落ちない私たちだから早速このリーフに乗つて見たが、高いところでは30mも40mもある大きなリーフで折柄の風にあおられて、結構ゆれてぶらぶらするから景色がよくて満足するよりもリーフにしがみついて恐しさをまぎらわすので精一杯だった。失敗して落ちたら歩道があるばかりだから正直こわものだつた。

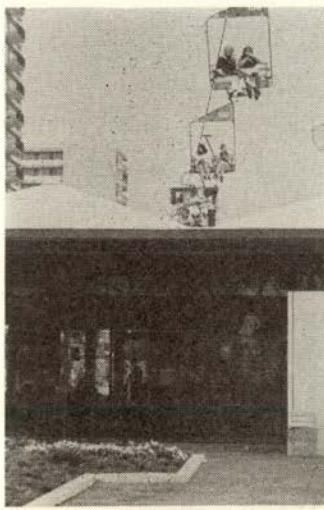
いづれにしても、神戸港の姉妹港ロッテルダム・ユーロポートはいまも前進を続づけていて頼もしい限りである。神戸港も日々進歩しようとしている。とくにロッテルダムでも注目しているポートアイランドを神戸市がどのように立派に完成させるか大切なところである。

それに感心したことは、その建物ではショッピングセンターハウスはほとんど二階建であつて、ショーウィンドウもカラフルで美しい。このレインバーン・ショッピングセンターの中心に巨大なデ・ドゥーレンがある。ここは国際会議場にもコンサートホールなどに使用されている。そして、ショッピングセンターのまわりには高層の高級住宅がならんでいて、上手な都市計画の見本のようにいわれている。

レインバーン・ショッピングセンターはあちらこちら歩道の中央部にカフェテラスがあり花壇があつて趣きをそえている。オランダ名物の野外人形劇も賑やかに人を集めいで、決して気取りすました店がならんでいるわけがない、そこにはどんなにして人間らしい暖かいコミ



レインバーンショッピング・プロムナード



レインバーンをとりまくリーフ



ネクタイの

## 元町バザー

神戸・元町1丁目

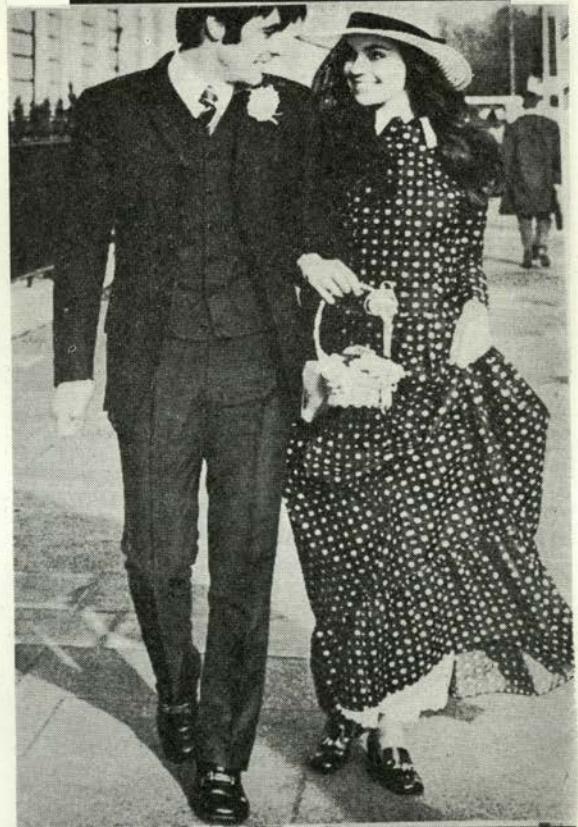
TEL (33) 1401

★阪営業所は山側向い

東京  東急百貨店

渋谷本店・日本橋店

その日の装いは忘れられぬ想い出



## O-SHIBATA



## 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693

大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



きものと細貨

# ちんがら庵

神戸

西店/三宮センター街・電話 33-8836(代)

東店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話 573-5298(代)

渋谷店/東急本店・電話 462-3409(直)  
(5階和装名家街)

日本橋店/東急日本橋店・電話 211-0511(代)  
(4階和装名家街)

## 多様化時代に変身する 男のシャツ

●大和屋シャツ

'70秋冬展示会

9月25日～10月11日

国際店にて



紳士シャツの店

# 大和屋シャツ

■国際店☆カスタムシャツのアトリエ〈月曜定休〉

神戸国際会館1階 TEL25-0220 AM10時～PM7時

■三宮店☆紳士シャツ専門店〈月曜定休〉

三宮センター街 TEL33-6956 AM10時～PM8時

## 経済ポケット

ジャーナル



完成した西神文化センター



### ★住民の住民のための “西神文化センター”

神戸市西農業協同組合が  
神戸市と協力して進めてい  
た“西神文化センター”的  
建設工事は順調に進み、八  
月末に完成。

同センターは、神戸市垂  
水区伊川谷町潤和一〇五八  
第一神明道路ぞいにある。  
一階は同農協が事務所に  
使うほか、西神地区一帯を  
受持つ消防署が新設され  
る。二階は同農協の情報セ  
ンター、電子計算室、有線  
放送機室のほか、保健所に  
出先機関があり、三階は農  
協直営の総合結婚式場、ま  
た六百人収容できる大ホール

同センターは、神戸市垂  
水区伊川谷町潤和一〇五八  
第一神明道路ぞいにある。  
一階は同農協が事務所に  
使うほか、西神地区一帯を  
受持つ消防署が新設され  
る。二階は同農協の情報セ  
ンター、電子計算室、有線  
放送機室のほか、保健所に  
出先機関があり、三階は農  
協直営の総合結婚式場、ま  
た六百人収容できる大ホール

★日本一長い  
六甲有馬ロープウェー

四十四年四月に会社(六  
甲有馬ロープウェー株式会  
社)設立。巨費九億五千万  
円をかけた、六甲山頂を越  
えて湯の町有馬まで、全長  
五千三十二メートル日本最  
長のロープウェーが完成。

コースは、現在六甲ケ  
ブル山上駅を出発点とし、  
東へ千百三十四メートルに  
転展望台わきの地点にカン  
ヅリ駅。ここまでが表六  
甲線。カンヅリ駅から有  
馬駅までを裏六甲線とし、  
神戸から有馬まで三〇分。

四季を通じて、瀬戸内海  
の景観、夜は千万ドルの夜  
景が楽しめ、新しい観光の

ル、中会議室、小会議  
室を設け、地域住民の集会  
場に利用。四階は神戸市立  
図書館分室を設けるなど、  
新興住宅地(地域住民全  
体)の文化・行政・産業の  
総合センターを目指した新  
しい試みは全国的にもめず  
らしい。

動脈として人気を集めそ  
う。

運賃は、山上駅から有馬  
駅まで大人四八〇円、小人  
二四〇円。

### ★上島珈琲本社 高機能総合工場を完成

上島珈琲本社(資本金五  
千万円、上島忠雄社長)は  
八月三日、高機能市辻子に鉄  
筋四階建て延べ二千五百百  
方メートル、総工費約五億  
円をかけて新工場を建設。  
同工場では、月産約三十  
トン金額にして三億五千万  
円の荒びきコーヒーを生



運行を開始した六甲山上駅

新製品はアルミ箔で包装  
され、コロンビア、ブルー  
マウンテンなど七種類、い  
づれも一個二五〇グラム入  
りで価格は四百円程度、業  
務用荒びきコーヒーでは全  
国の一七%のシェアを持つ  
大手業者だけに注目される  
同社が初めて。

### ★ KOBE オフィスレディ ★



大堀真由美(20才)

竹馬産業株式会社 専務秘書

大堀さんは、「・・・さんが、どこどこへ出張するから切符を買って来て」と言わると、買った切符に何時発の列車だと到着時間までメモをして切符に届けるという、他人に対する行きとどいた気持とウイットに富んだお嬢さんです。

兵庫区在住 42年神戸市立神港高等学校卒



完成した UCC 高機能総合工場